

身体抑制廃止にむけての宣言

益田地域医療センター医師会病院

身体抑制は、患者様の心と身体を傷つけるだけではなく、生活の質を低下させ、人間としての尊厳を侵すものです。

私たちは、患者様一人ひとりがどのような療養生活を望まれているのか、信頼と心のふれあいのある豊かで、快適な療養生活とは何なのかを追求する中で、身体抑制に至らない質の高い医療の実現に向け、全力を尽くすことを宣言いたします。

- 1.身体抑制廃止にむけ、人間としての尊厳を大切にします
- 2.身体抑制廃止にむけて、質の高い医療を追求します
- 3.身体抑制廃止にむけて、強い意志でチャレンジし続けます

平成14年4月

身体抑制廃止の必要性

身体抑制へと至らぬ 質の高い生活実現に向けて

平成12年4月介護保険がスタートし、高齢者などが利用する介護保険施設では緊急やむをえない場合を除いて身体抑制は原則として禁止されました。よって、益田市立介護老人保険施設くにさき苑や介護保険適応の介護医療院ふたばにおいては身体抑制は実施していません。

平成14年度から、患者様（利用者様）の人権尊重、質の高いサービス・ケアの提供を目指し、医療保険適応の病棟においても抑制のない生活支援の実践を行うことになりました。

そもそも身体抑制は、医療や看護の現場では援助技術の一つとして、手術後の患者さまなどの安全を確保する観点からやむを得ないものとして行われてきています。現場のスタッフは、身体抑制の弊害を意識しながらもなかなか廃止できないジレンマの中で『縛らなければ安全を確保できない』と自らを納得させることにより、身体抑制への抵抗感を次第に低下させているのではないだろうかという点が問題視されています。

身体抑制の定義

1. ベッドに体幹や四肢を紐などで縛り固定する
2. 自分で降りられないように、ベッドを柵等で囲む
3. ベッドに柵をして、取り外しが出来ないように固定、または高い柵をつける
4. 手指の機能を制限するミトン型の手袋をつける
5. 車椅子や椅子から立ち上がれないように、安全ベルトやテーブルをつける
6. 車椅子を自操できるのに、車椅子を固定し動かせないようにする
7. 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるような椅子を使用する
8. 脱衣やオムツ外しを制限するために、抑制衣（つなぎ服）を使用する
9. 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる
10. 鍵がかかる部屋に隔離する
11. 指示、命令など威圧的な言動、対応をする
12. 要望に対し、無視、無関心、支援拒否などをする
13. 行動を抑制しようと意図的に体動センサーで監視する

身体抑制廃止の必要性

1. 身体抑制と抑制死の関連性

縛ることで関節が拘縮し、筋肉が萎縮し、心機能が低下し、全身状態が衰弱し、感染も起こしやすくなります。縛られてしまったという精神的なダメージとの相乗効果で、障害を持つ弱い高齢者に致命的な変化が生じ、もはや縛ることをやめても、縛られる以前には回復しなくなります。こういう身体抑制の悪循環を説明したのが、次の図の「抑制死」という考え方です。たとえば、「徘徊老人を抑制する→歩行能力の低下→転倒の危険性が増加した」という理由でさらに抑制→全身の衰弱→治療的な処置(点滴・IVHなど)→それらの抜去を防ぎ治療を遂行する為に抑制→やがて抑制をされ管に囲まれたまま死を迎える」というストーリーです。

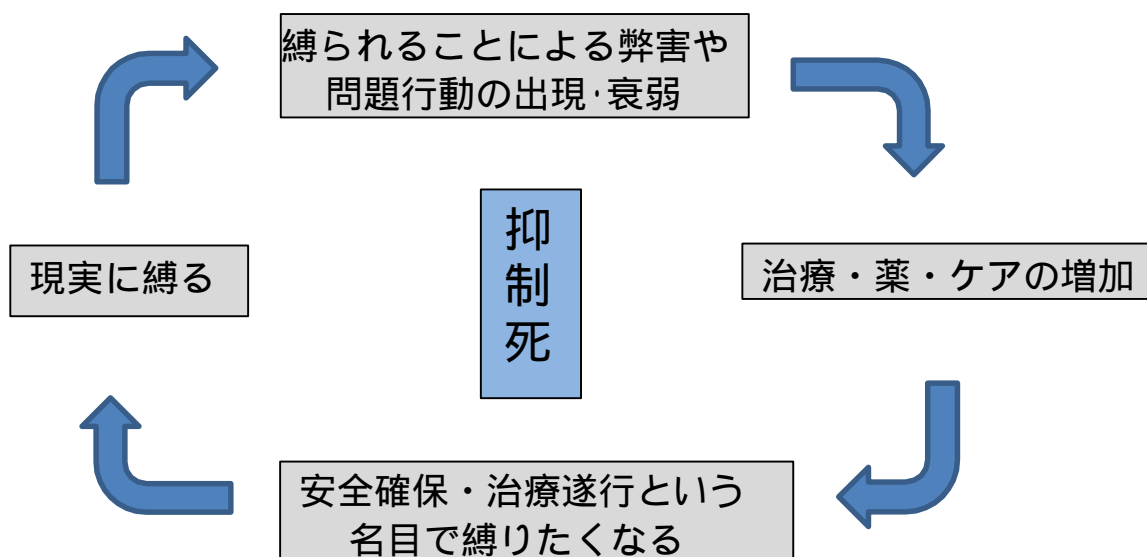
多くのケースでは身体抑制してすぐに死亡するわけではなく、全身の衰弱後、感染などで亡くなっていくことがほとんどです。したがって身体抑制の弊害について意識しないと見過ごされることが多いです。

2. 医療従事者から見た身体抑制

医療従事者も「患者の安全確保」という名目のもとに縛っていましたが、本音は自分たちの都合で縛っていました。それは縛ること以外の方法を知らなかったからです。「ごめんね、ほかに方法がないから」と言い訳しながら縛っていました。

そして、少しゆるめに縛ることや、やさしい気持ちで縛ることが唯一の悲しい工夫でした。それは専門職としてもつらいですし、人間としてもつらいことです。患者さまやご家族、そして自分自身にいつも罪悪感を持ち、専門職としての誇りや向上心も無くしてしまいます。それが続くといつしか、縛ることに無関心、無感覚になり、患者さまやご家族の悲しい叫びも感じなくなってきます。

抑制死の考え方



身体抑制の弊害

身体的抑制	<ul style="list-style-type: none">・生理機能の低下・食欲の低下、脱水、褥瘡、関節の拘縮、全身の筋力の低下、心肺機能の低下、感染症への抵抗力低下 ⇒慢性抑制死
	<ul style="list-style-type: none">・事故など…嘔吐物による窒息、抑制帯による事故 ⇒急性抑圧死
精神的抑制	<ul style="list-style-type: none">・痴呆の進行、せん妄の頻発、昼夜逆転・利用者の精神的苦痛…怒り、不安、恐怖、屈辱、抵抗、拒絶、錯乱、あきらめ、荒廃・家族の精神的苦痛…怒り、屈辱、混乱、あきらめ、不信、後悔、罪悪感の持続・従事者の精神的荒廃…虐待、独善、無神経、無感覚、あきらめ、士気の低下
社会的抑制	<ul style="list-style-type: none">・老年期への不安増大・高齢者施設 ・機関への不信 ・偏見とバッシング・老年看護・ケアへの人材不足、慢性的な人手不足